

タイ語における 擬音語の意味拡張



—tòʔtèʔを事例に—

リーラワットワッタナー・ナットワラー

北海道大学 大学院文学院

人文学専攻 言語科学研究室



未来社会のあるべきかたち

★擬音語の意味の豊かさを理解し、日常に潜む言語の面白さを楽しめる。

★多義語の意味ネットワークを把握し、教育現場における効果的な語彙指導に貢献する。

★他言語を学ぶことを通して、自らの母語を見つめ直す。

意味拡張とは…

意味拡張：言葉が元々の意味から新しい意味へ広がっていくこと。

→意味拡張によって一つの語が二つ以上の意味をもつ語（多義語）が生じる。

★その意味の間に関連性がある。

（意味間の関連性は「類推」という人間の認知能力に支えられる。）

メリット：限られた数の語で多くの意味を表現できる→記憶の負担がかからない

例えば…「目」

a. 目が大きい。（視覚器官）

b. 目が悪い。（視力）

c. 目に入る。（視野）

擬音語と多義語

擬音語にも多義語があるよ！

Q：次の「ゴロゴロ」はどういう意味をしているのか？

- ① 球がゴロゴロ転がっている。
- ② 休日は家でゴロゴロすることが多い。
- ③札幌には、美味しいラーメン屋がゴロゴロある。

A：

- ①物体が転がる音・様子
- ②寝転ぶ
- ③たくさんある

擬音語の意味拡張は、日本語だけでなく、英語、中国語、韓国語にもみられる（Akita2013;游 2014）。

→タイ語はどうか？ tòʔtèʔ を例にして考えよう！

tòʔtèʔ：子どもが歩き始める時の足音・様子
（子どもの頼りない足取りで歩く様子を表す点で、日本語の「よちよち」に近いかも！）



tòʔtèʔはいろいろな文脈に現れる！！

- | | | | | |
|---|-----------------------------|--------|---------|-----------------|
| ① | dèk | dɤ̀n | dan | tòʔtèʔ |
| | 子ども | 歩く | 音がする | トコトコ |
| | 子どもがトコトコ（という音を立てながら）歩いた。 | | | |
| ② | lùuk | hàt | dɤ̀n | tòʔtèʔ |
| | 子ども | 練習する | 歩く | よちよち |
| | 子どもがよちよち歩く練習をした。 | | | |
| ③ | tharók | khâw | sùu waj | tòʔtèʔ |
| | 赤ちゃん | 入る | に 年代 | 幼児 |
| | （よちよち歩き出せそうな）幼児の年代に入った赤ちゃん。 | | | |
| ④ | naan | wíʔcaj | jan jùu | naj khân tòʔtèʔ |
| | 作業 | 研究 | まだ ある | ～中 段階 初期 |
| | 研究作業はまだ初期段階にある。 | | | |

★ tòʔtèʔは単に足音やその様子を表すだけでなく、その背後にはさまざまな知識（子どもにまつわる知識など）がある。人間はこの知識を基盤として類推を行い、対象の間の類似の点を見いだすことで、元の表現を新しい対象へ適用する。